

耳鼻咽喉科

【診療概要】

基幹病院の耳鼻咽喉科として症例数が多く、すべての分野での疾患を経験することができる。耳鼻咽喉科専門医の資格を有するスタッフが指導にあたる。多忙であることは否めないが、豊富な臨床経験を積むことができ充実した後期研修が可能である。日本耳鼻咽喉科学会認定施設、日本気管食道科学会（咽喉頭）認定施設でもあり、耳鼻咽喉科専門医試験の資格を得ることも可能である。学会発表なども定期的に行っている。

【目標と理念】

症例ごとに診断・治療方針を決定し、その後は治療・手術を習得し確実に責任をもって遂行できることを目標とする。

【到達目標】

1. 外来診療の検査としては、聴覚検査、内視鏡検査、組織診検査、前庭検査なども習熟する。検査の必要性とその結果を説明し、治療方針の決定を行う。診察時の器具の使い方などもできるようにする。また外来での小手術も対応できるようにする。
2. 病棟では、毎日のカンファレンスで症例提示を行い術前・術後の管理が行える。手術内容によっては術者として手術を行う。手術は、扁桃摘出術やアデノイド切除術手術などから始まり鼻中隔矯正術、内視鏡下副鼻腔手術、鼓室形成術などを習熟する。手術件数はホームページを参考にされたい。
3. 当院は新生児聴覚障害児の精査施設と認定されているため、新生児や乳幼児の難聴児の検査と診断、その後の療育までの導入に関わらなければならない。児の診断ばかりでなく、児の周辺事項（家族・保育園・行政など）との関わり方を学ぶ。
4. 高齢化が進んでおり難聴者が増えている。聴覚検査と診断ができて難聴者の解決にはつながらない。このためリハビリテーションとして補聴器のフィッティング方法や読話について学ぶ。いくつかのコミュニケーション方法を習熟する。
5. 基幹病院の役割の意味や救急対応、紹介患者の診察などを学ぶ。
6. 学んだことは、初期臨床研修医に還元できるように努力する。